京都の地で、香りの歴史を重ねて

香老舗 松栄堂

このコーナーでは、京都で活動する企業・団体をご紹介します。今回は、創業300年を超える「お香」の老舗である株式会社松栄堂です。ライフスタイルに合った「香り」を提案し続ける松栄堂は、京都市景観・まちづくりセンターで取り組んでいる京町家教育プログラムにて、京町家とそのくらしの文化を伝える授業にもご協力いただきました。同社の企画事業部長の辻光一郎さんにお話を伺いました。（写真提供 松栄堂）

誠実に応え、届ける

お香は、仏教伝来とともに約1400年前に日本にやってきた文化です。しかし、私自身は伝統文化を守っているだけで良いという意識はありません。時代の流れを見ながら、確実に、社会から求められることに応えていくことが重要だと感じています。現代生活でも身近な香り。その人に適した、品質の良い「和の香り」を提案し、届けたいと考えています。

歴史のフィルターをくぐり抜けてきた伝統文化の魅力は、年齢を問わず伝わります。和の香りに触れる機会が増えれば、若い方々にもその魅力を知っていただけます。高校生向けの京町家の授業に協力しましたが、ワークショップを通して、和の香りと出会う場を若い方に提供する良い機会をいただきました。多様な活動が商品の多様性につながっていくと思います。

松栄堂の辻 光一郎さん

京都の空気を感じることを大切に

京都に創業して、永年京都の皆様にご愛顧をいただき歩んできました。京都のまちには、京都にいることでしか感じられない空気があり、情報の質や量も圧倒的です。

また寺院や茶道などで使われる専門的な香りを確実にお届けすることをはじめ、京都で商いを続けさせていただける意味は大きいと思います。京都というまちの厚みを増すためのお手伝いができればうれしいです。

株式会社松栄堂ホームページ
https://www.shoyeido.co.jp/

京都人㋜の京都知らず 編集後記

コロナ禍の今、リアルに集まりにくい今だからオンライン配信で、より広く遠距離の方々とつながることができる「路地tv 2021 from西陣」※
西陣の路地奥から生配信のお散歩のあとをついて歩きました。半プライベート空間の路地では密を避けるように距離を離し過ぎて案内者を度々見失いました。まるで迷路のようです。

その他の配信番組では、まちセンがファンド助成事業で助成した事例も登場しました。「五条坂なかにわ路地」や「爪掻き本綴織職人・森さん」です。安心して暮らせる路地の魅力を、ぜひご覧ください。（小出）

QRコードから視聴できます

テレビ局でもないのに個人で
生放送ができて、でも町には
江戸時代から残る建物があって、
そして疫病は世界に蔓延していて、と、
なんだか不思議な時代に生きているなあ。
早くマスクしなくていい日が
やってきますように。

著者：グレゴリ青山

漫画家、イラストレーター。1966年、京都市生まれ。壬生の地で生まれ育つ。現在は京都府亀岡市在住。京都が舞台の著書多数。「京都人㋜の京都知らず」を収録した『グレさんぽ 猫とかキモノとか京都とか』、文庫本『京都深ぼりさんぽ』が発売中です。

※NPO法人アニュアルギャラリー、京都市、都市居住推進研究会の主催。
「西陣地域の活性化の取組」の一環で、路地の研究や路地で活動している方々など路地の多様性を広く伝える路地づくしの番組配信。

京まち工房 ニュースレター 94
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

特集 P2-3 京町家や歴史的な建物を守るための様々な取組

CONTENTS

P1 京都人㋜の京都知らず
P4 Withコロナと地域まちづくり
P5 京都景観ゼミナール
P6 地域まちづくりの専門家紹介
P7 ご支援いただいた皆さま
P8 企業・団体紹介／京都人㋜の京都知らず 編集後記

令和3年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様			
「京ぐらし」ネットワーク	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR ISETAN this is japan.	「価値ある相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター
フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
公益社団法人 京都市観光協会	ART GALLERY & RENTAL SPACE be-kyoto	株式会社都ハウジング	大阪ガス
一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	京町家をお探しします。 株式会社 八清（ハチセ）	京都信用金庫	SAPPORO
中藏	京都でんき Powered by HAUSENE	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701 FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：http://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター 検索

※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

KES ステップ1登録
この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター京まち工房 第94号 2021年3月 編集・発行：公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

ニュースレター
京まち工房 94
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

グレゴリ青山 京都人㋜の京都知らず その12 路地tvで西陣活性化

※「路地tv 2021 from西陣」アーカイブを視聴できます。「路地tv西陣」で検索。またはhttps://www.tv.roji-cul.net/

京町家や歴史的な建物を守るための様々な取組

京都市景観・まちづくりセンター（まちセン）では、京町家や京都固有の景観を保全・継承していくために、様々な取組を行っています。寄附者の方々のご協力による景観保全のための助成や、京町家の専門家に最新の改修事例や情報を知っていただくための研修、市民の皆様に京町家を体験していただく見学会や、京町家にまつわる様々なテーマのセミナー等々…。今回ご紹介する取組はほんの一部ですが、まちセンの活動を皆様にお知らせすることで、京町家や景観保全に興味を持っていただくきっかけとなれば嬉しいです。

京町家を守り、受け継ぐ現場の紹介　－京町家まちづくりファンド見学会－

昨年12/11に、前号でもご紹介した「京町家まちづくりファンド」の改修助成により、路地全体の外観改修を行った**五条坂なかにわ路地**と、令和2年度に選定され、現在改修工事中の**H邸**について、寄附者の皆さまを対象とした見学会を開催しました。各会場の所有者・設計者・施工者より、建物、改修内容についてご説明いただきました。

路地に面して8軒、本二階建て4軒長屋が向かい合わせに建っている**五条坂なかにわ路地**。東棟では、従来の出格子による低い採光性や画一的な外観とならないよう、新たに可動式の出格子がデザインされています。その場で実際に出格子を動かしながら、土間からも見学させていただき、屋外と屋内のつながりや可変性について体感することができました。高齢世帯から子育て世帯まで幅広い年齢層が住まう路地として生まれ変わったこの場所にふさわしく、フレキシブルな使い方のできるデザインです。

改修工事が始まったばかりの**H邸**は、京焼に従事していた祖父、父から受け継いだ町家を、地域の高齢者や、文化活動を共にする方々との活動拠点とすることを目指しています。今後も改修工事の進捗状況等について、随時お知らせしていく予定です。

五条坂なかにわ路地

H邸

京町家に触れる、知る機会の提供　－京町家再生セミナー・再生事例見学会－

11/7　京町家再生事例見学会（中川幸嗣氏）

1/27　京町家再生セミナー（安井昇氏）

まちセンでは、京町家に関わる様々なテーマを取り上げる「京町家再生セミナー」を開催しています。通常はセンターのワークショップルームにて座学形式で開催しています（※一部ZOOM開催）が、年に数回、京町家にて講座と見学会を開催し、皆様に京町家を体験していただく機会を設けています。

昨年11/7には、**「京町家まちづくりファンドを活用した京町家の再生事例」**と題した見学会を行い、中川幸嗣建築設計事務所代表の中川幸嗣氏にお話しいただきました。

かつて住まい兼工房として使われていた織屋建の京町家を、建築士である中川さんがご自宅兼事務所として改修されました。外観に関する改修工事に際しては、当財団の「京町家まちづくりファンド」を活用されました。

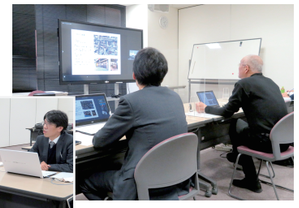
これまで受け継がれてきた京町家の歴史、建築士かつ京町家の住まい手としての建物への想い、改修に際してこだわったこと、京町家再生の貴重な体験についてお話しいただきました。実際に改修された京町家と工事写真を見ながらの講義で、参加者もイメージがしやすかったのではないかと思います。見学会は、京町家のよさを、現代の生活にも合うように取り入れた素敵な暮らしの様子に触れられる、貴重な機会です。

また、1/27には、**「伝統構法の建物における防耐火性能」**と題し、桜設計集団一級建築士事務所代表の安井昇氏にご登壇いただき、オンラインでのセミナーを開催いたしました。熱伝導率が低い「木」や「土」が、炎に対してどのような力を発揮するかについて、実験映像を交えながら説明していただき、木造建築の防火性能について学びました。

京町家や路地を守るための方法の共有　－京町家相談員スキルアップ研修－

「京町家相談員スキルアップ研修」は、京町家相談員の皆さんを対象に、京町家の再生に関する最新情報をお届けする取組です。

昨年11/26に、**「連担制度を活用した京町家の保全の可能性を考える」**と題したオンライン研修を行いました。京都市建築指導課の担当者より連担建築物設計制度（連担制度）の概要をご説明いただくと共に、株式会社八清の西村孝平氏、末川協建築設計事務所の末川協氏より、連担制度を活用した京町家の保全再生事例と、活用に至るまでの背景をご紹介いただきました。これまで再生が難しいとされてきた、京都らしい風情を残す路地空間を、より良いものとして次世代に受け継ぐための手法を学びました。



歴史的な建物を調査し、レポートにまとめる　－京建物カルテ－

「京町家カルテ」は、京町家の調査を行い、今後も大切に維持・継承していただくことを目的として、平成23年度から始まりました。平成28年度からは、京町家の外観をレポートにまとめる「京町家プロフィール」事業も開始され、これまでにあわせて600件以上のレポートが作成されました。

一方で、京都には、農家住宅や近代和風住宅など、まちなみ景観を特色づけ、まちの人たちに大切にされてきた建物が京町家の他にも数多く存在しています。このような建物は、「京町家カルテ」の要件に当てはまらないため、これまで「京町家カルテ」の作成を希望される方がいてもお断りせざるを得ませんでした。

そこで私たちは、京町家の形式にあてはまらない歴史的な建物を「京建物（きょうたてもの）」と名づけ、京町家と同じように調査を行って、その建物の特徴や由緒などを明らかにし、適切に評価することで、所有者や関係者の認識を深め、大切に維持・継承されていくことを目指して「京建物カルテ」事業を新たにつくりました。令和元年度からはじまったこの事業についてご紹介します。

京建物ってどんな建物？

- 築50年以上を経過した歴史的な建物
- その時代の特徴を表し、歴史的な価値が認められる建物
- 独自性に優れ、意匠的な価値が認められる建物
- 地域で愛され、その土地固有の文化を伝承してきた建物
  農家住宅、近代和風住宅、近代洋風住宅など、
  幅広い建物が対象になります。

※他にも要件が定められています。詳細はお問い合わせください。
※カルテの申請に当たっては事前相談および現地確認をおこないます。

京建物カルテの内容は？

①**文化情報**
建物の概要・由緒沿革・特徴・歴史的な価値を考察したもの
②**建物情報**
大工の調査員が建物のゆがみや柱の沈み、給排水や電気設備などの現況を調査したもの
③**図面**（配置図・平面図）
からなります。

※現地確認の後に、作成料の見積をします。
建物の規模条件などで作成料は変わります。申請に際して①、②、③のうち必要な情報だけを選ぶことができます。

こんな京建物カルテを作成しました

事例1
洛中に建つ3階建て建物です。建物がたどってきた歴史や、建物そのものの構造のおもしろさをレポートにまとめることで、まちの中で大切につなげていければと「京建物カルテ」を申請いただきました。

事例2
京都市郊外に建つ近代和風住宅です。元々は改修についてのご相談から始まりました。建物を誇りに思う気持ちを伺い、「京建物カルテ」を作成することでさらに次の世代へ引き継いでいただくことをおすすめしました。カルテ作成をきっかけに「京都を彩る建物や庭園」※の選定にもつながりました。

申請者の方からのコメント

「祖父は戦争ただ中、京都で工場付き住宅を探し急ぎ求めたようです。築年数も定かでなく、維持に悩みながら過ごしてきました。地震台風で多々傷み改修することになり、京建物カルテにていつ建てられたのかを調べて頂けると聞き依頼しました。その際、建物の構造や使用材の特色その他知らなかったことを教えて頂き、今は壊さなくて本当に良かったとつくづく思っています。この家の価値を再認識させて頂いたことに感謝しております。」

※「京都を彩る建物や庭園」制度（京都市文化財保護課）
市民の皆さまが京都の財産として残したいと思う建物や庭園を公募によりリスト化する制度です。

まちセンがサポート！

With コロナと地域まちづくり

2020年は、4月の緊急事態宣言など、新型コロナウイルス拡大防止のため、いつも通りのまちづくりの取組が進められない1年でした。緊急事態宣言の解除後も、三密防止が呼びかけられる中、地域の皆さんはどのようにまちづくりに取り組んだのでしょうか。

コロナ対策を意識して進められた取組と、これからも予想される余波に向けて、コロナ時代のまちづくりの工夫について紹介します。

コロナ禍のお悩み

取り入れた工夫・方法

役員が集まって会議を開けない！

心配

- 相手の雰囲気が分かりづらいので、話がしっかり通じているか心配。
  ⇒ジェスチャーを大きくする（大きくうなずく）ことなどが、オンライン会議の意思表示に有効と言われています。
- ネットワークの環境が不安。
- ズームの場合、無料版は、45分しか使えないのでは？

【祇園新橋景観づくり協議会など】
オンライン会議を実施

【地域景観まちづくりネットワーク会議 ※1（11 地区）】
会合とオンラインを組み合わせて開催

取組のポイント

- 集まらず、感染リスクを減らす。
- 集まらなくても顔を合わせて会議ができる。
- 家から参加できれば、移動の手間が省け、時間も有効に使える。

まちセンが支援する地域の会合や取組については、オンライン会議のサポートも可能です※2

防災訓練やまちあるき、意見交換会など、地域のみんなが集まる取組ができない。

心配

- 参加者を限定したら、みんなへ共有する方法は？
  ⇒まちづくりニュースを全戸配布して、参加できない皆さんにも取組を報告しました。
- 密を避けると言っても、自治会館の部屋ってそんなに広くないしな…

【菊浜・粟田・醒泉学区など】
- 町内会長・防災部長を対象とした防災まちあるきを開催。
- ブロックごと、複数回に分けて実施
- 会場を一階と二階に分けて振り返り
- 壁に貼った地図やスクリーンに映した写真を元に、対面せずに発言できる意見交換会。

【梅屋・本能学区など】
- アンケートで意識調査

取組のポイント

- 参加対象を限定し、一回に集まる人数を少なく！
- 一斉に行わず、場所や回数・日程を分ける。
- 対面しない座席の配列
- 人が集まらなくても実施可能な取組

まちセンのワークショップルームが利用できます（要予約）※3

これからに向けたアイデア

- 学区行事は複数のスケジュール（予備日等）を設定しておく。
- コロナの感染者数が減少する時期を見計らい、取組を集中する。
- または、一つの取組を複数回に分け、スケジュールを分散させる。
- 事前に取組の内容を検討し、活動に取りかかれる準備を整えておく。
- 目的が共通する取組を他の各種団体と合同で行い、取組の回数を少なくする。

2021年も、引き続きコロナ対策に配慮しながら地域活動を進めなければならないことが予想されます。試行錯誤して取り入れた工夫も、これが完璧というものはありません。コロナ元年の経験を踏まえ、色々な方法を組み合わせたり、更に改良を加えながら取り組むことが求められます。例年通りの活動ができなかった地域も、安心してまちづくりの取組を進められるよう、まちセンもお手伝いしています。まずはご相談ください！

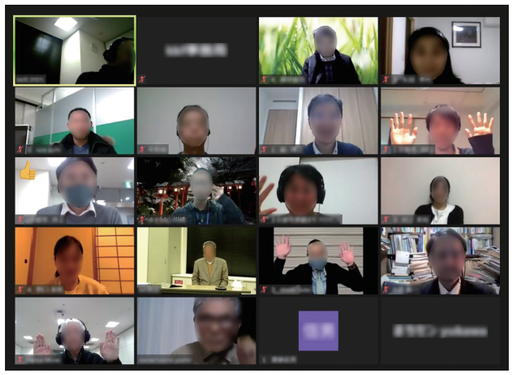
※1：京都市内の地域景観づくり協議会制度を活用している地域の集まり。
※2：地域の課題やまちづくりの問題等について、事前にまちセンにご相談ください。オンライン会議で使用されるPCはご用意ください。
※3：使用には、まちづくり団体としてまちセンに団体登録が必要です。

今年はオンラインで開催！

京都景観ゼミナール

景観の基礎を学ぶ恒例の「京都景観ゼミナール」。今年は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、ワークショップルームに集まらず、オンラインで開催しました。大学生から80代まで、年齢もお住まいの地域も様々な19名の皆さまから申込がありました。ZOOMによる講座で、動画講義や「バーチャルまち歩き」を体験された他、最終日にはオンラインでワークショップを行いました。

京都景観ゼミナールはこれまで、当センターのワークショップルームに集まり、まち歩きをして建物や景観の写真を撮影したり、その写真をまとめた地図を見て意見交換したりしていました。しかし、今年度は新型コロナウイルスで集まることが難しく、初のオンライン開催になりました。



最後に受講された皆さんで記念写真を撮影
（プライバシーに配慮し画像加工しています）

第1回は受講生の皆さまが、それぞれ、お気に入りの景観の写真を見せながら自己紹介されました。続いて景観の基礎知識を学ぶ動画講義を視聴し、普段何気なく見ている「景色」と「景観」の違い、類似と差異を意識しながら見ることや、景観の背景にある歴史や生活文化を読み解くことの大切さ、まちづくりビジョンとは何かなどを学びました。

第2回では、京町家や近代建築が残る三条通（寺町通～烏丸通）を歩行者目線で撮影した動画を見る「バーチャルまち歩き」の後、三条通を特徴づけるもの、景観を阻害するもの、気づいた点について話し合いました。山口先生の動画講義では、景観は自然的なもの、文化的なものの相互の影響を受けた結果であり、私たちが知覚するものであること、その関係を掘り下げる大切さを学びました。気づいたことをチャットに書き込む方もいらっしゃいました。

最終日の第3回は、三条通の良い所と課題、改善方法、将来像など、オンラインワークショップで意見交換をしました。付箋に意見を書き、模造紙に貼っていく様子を共有するGoogleのジャムボード（Jamboard）を使い、1時間近く意見を出し合った後、グループごとに発表。課題としては、交通量の多さ、建物の統一感がとれていないこと、京町家の存在感がないことがあげられました。解決策としては、建物の色に統一感を持たせること、住む人、商売をする人、通りを利用する人の意見を大事にしたまちづくりなどの意見が出ました。

第1回　景観/景観まちづくりってどんなもの？
－景観の基礎知識－

日時　1月14日（木）　午後7時～午後9時
講師　森川 宏剛 氏／篁（たかむら） 正康 氏
（景観整備機構 NPO法人 京都景観フォーラム）

第2回　バーチャルまち歩きで景観視点を養おう！
－景観の読み解き方－

日時　1月15日（金）　午後7時～午後9時
講師　山口 敬太 氏（京都大学大学院 工学研究科 准教授）

第3回　どんな景観まちづくりがふさわしいのか考えよう！
－ビジョンの考え方－

日時　1月28日（木）　午後7時～午後9時
講師　森本 浩行 氏（京の三条まちづくり協議会 会長）

事務局による運営は、密を避けて行いました

続いて、三条通（寺町通～新町通）のまちづくりをされている森本氏が、7つの町内会で構成され、3学区にまたがる地域の協議会として、様々な人が連携しながら三条通の魅力を守っていくために活動されている様子をご説明されました。

最後はオンラインで記念撮影して講座を締めくくり、全回を通して参加された11名の方には、修了証がメールで送られました。

第20回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

地域の想いをカタチにするお手伝い

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。
このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い想いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介しています。

山本（やまもと） 一馬（かずま）氏 街角企画株式会社 代表取締役

大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻修了。コンサルタント会社に勤務後、街角企画（株）設立。地域、まちの担い手であるコミュニティが自ら取り組むまちづくり活動の支援が業務の中心。分野は、地域振興、都市計画、防災、地域商業等。日本都市計画家協会副会長。近畿大学、大手前大学非常勤講師。技術士（建設部門）、認定都市プランナー。趣味はカヌー、テニス、スキー、温泉めぐり、ねこのいる暮らし。

ーまちづくりコンサルタントになるきっかけ

阪神淡路大震災がきっかけです。建築家になりたいと考え、大学で建築を学び、泊まり込みで卒業設計を進めていたまさにその時に、大きな揺れに襲われました。

その後進んだ大学院では、いくつかの地域で、震災復興の現場に入ることになりました。そこでまちに想いを寄せる人の住まいの再建をお手伝いする中で、人がそのまちで暮らし続けたいという想いをカタチにすることこそ、まちが豊かになるために何より大切なことだと感じ、今の仕事を志すようになったのです。

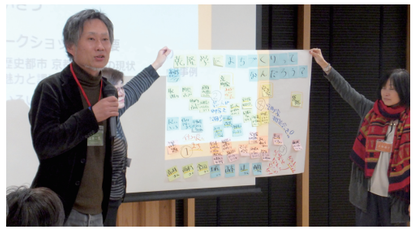
まちあるきの様子

ー「地域の想いをカタチにする」

「想いをカタチにする」というキーワードに「地域の」という冠がつくことがまちづくりだ、と強く実感した出会いが、京都のまちづくり、特に、下京区有隣学区のまちづくりとの出会いでした。

有隣の皆さんとは、まちセンが主催した地域まちづくりセミナーをきっかけに知り合いました。ワンルームマンションが乱立する中、ファミリー層を増やし、「ぬくもりある暮らしが息づくまち有隣へ」というまちづくりビジョンをカタチにするために、地区計画という都市計画手法を活用する取組で、私は技術面でお手伝いさせていただきました。

有隣でまちづくりに関わる皆さんは、日頃から地域や住民へ目を配り、地域への想いが強く、町衆というのはこういうものなのだと感じましたが、有隣のように、自治活動がしっかりした地域でさえ、不動産の急激な動きに伴い、豊かな地域のお付き合いとまちの様子にズレが生じていたのです。「地域の想いをカタチにする」とは、このように地域の暮らしとまちのあり様を合致させるまちづくり活動なのです。


ワークショップの様子

ー都市計画、まちづくりを地域活動の手軽な手段に

履きなれた靴は身体と一体感があり、乗りなれた自転車は曲がるための動作を考えなくても、曲がろうと考えるだけでスムーズに動き、操作しているという感覚はあまりありません。

都市計画やまちづくりは、地域の想いをカタチにするための、より手軽な手段となる必要があります。普段から備えができていて、まちに変化が生じたときにはすぐさま対応できる、それがまちの遺伝子を守り、新たなことにもチャレンジできる豊かな地域です。コロナ禍の中、IT技術もうまく活用して、パラダイムシフトしたいところです。

ー多様性のある豊かな地域へ

日々の暮らしが守られ、活気ある地域では、多様性が認められ育まれます。ひとり一人が素直に発言し、行動できる地域。それは、帰りたい、見守ってくれる地域社会があってこそなし得るものだと思います。「なんだかこの地域の人はみんな居心地よさそうで、活き活きと暮らしているね。」そんなふうに、みんなが自分たちのまちに誇りに抱き、周りの人がうらやむまちづくりにこれからも携われたら嬉しい限りです。

～寄附受納式開催～

京町家まちづくりファンドに日新電機グループ社会貢献基金よりご支援

公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金より、京都の文化財保護に協力するため、京都市へ250万円、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターが運営する京町家まちづくりファンドへ50万円のご寄附を受けました。令和3年1月21日に京都市役所にて寄附受納式が執り行われ、日新電機グループ社会貢献基金の小畑英明理事長より門川大作京都市長、青山吉隆当財団理事長へ寄附金の目録を贈呈いただきました。複数年に渡るご支援に、青山理事長から感謝の意をお伝えしました。このご寄附は、平成30年2月に締結した文化財保護事業等の実施に関する三者連携協定に基づいて行われたもので、今回で4回目となります。

令和2年9月に開催した展覧会「Machiya Vision」に際し、小畑理事長には石村亭（旧谷崎潤一郎邸）でのインタビュー撮影にてお話を伺いました。日新電機グループが社会貢献基金を設立され、京都発祥の企業として自ら文化財を守られていること、そして、保全の取組に対するメッセージに感銘を受けました。

京町家まちづくりファンドでは、ご支援に深く感謝し、これからも京町家の保全・継承を通したまちづくりに尽力いたします。

写真：寄附受納式（左から門川市長、小畑理事長、青山理事長）

令和３年度賛助会員募集中！

当財団は、住民・企業・行政が力を合わせて、美しい京都のまちを守り育てていく、パートナーシップのまちづくりを推進しています。
活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集しています。

年会費　個人１口　5,000円　団体１口　50,000円

入会をご希望の方は、当財団にお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

賛助会員お申込みのご案内ページはこちら ▸ http://kyoto-machisen.jp/partner

※当財団の賛助会員は、公益財団法人に対する寄附として、税の減免措置を受けることができます。

特典1 ニュースレター「京まち工房」の送付　特典2 各種セミナー・イベントのご案内（随時）　特典3 当財団ホームページへのバナー掲載（団体会員のみ）

令和２年度は下記の皆さまにご入会いただきました。ご支援ありがとうございました。

【個人会員】（五十音順、敬称略）
赤星 周平、浅田 毅、足立 和康、網野 正観、荒井 孝、荒川 朋彦、池田 均、池端 美香、生駒 勲、石川 日佐美、石原 一彦、石原 敏彦、板原 征輝、伊藤 真嗣、伊藤 正人、稲木 藍、井上 信行、井上 久明、井上 道子、岩崎 清、岩﨑 亘男、上嶋 晃弘、畝 博之、梅澤 優司、江田 頼宣、大川 哲、大岸 將志、太田 滋子、太田 昌志、大西 美和子、岡崎 篤行、岡田 圭司、岡田 耕介、岡本 正二、奥 美里、尾崎 学、小田 厚子、梶山 真樹、片山 隆一、加藤 昭、加藤 貴之、加藤 幸雄、門川 信一郎、金森 高行、川口 浩、河崎 尚志、河村 宏、川本 淳一、北川 洋一、木股 博一、来海 賢一、木村 忠紀、桑原 尚史、小嶋 新一、小谷 啓太、小西 正直、小西 吉治、酒井 教昭、坂本 朝子、坂本 登、坂本 正壽、佐々木 亮太、佐藤 友一、真田 松寿、鮫島 恵子、柴崎 孝之、島田 和明、島村 泰彰、清水 博之、神谷 宗宏、杉崎 和久、杉本 憲二、杉本 昇治、鈴木 知史、炭崎 勉、関岡 孝繕、瀬野 伸輔、高井 均、高川 祐子、髙木 勝英、髙木 貴子、高木 伸人、髙谷 和代、武村 純一、立石 涼一、田中 計司、田中 照人、田中 庸平、谷口 一朗、谷村 寧昭、玉田 智子、玉山 千映子、玉山 秀文、田村 郁夫、辻 勇治、恒成 恒、寺澤 昌人、寺島 彰、寺田 史子、寺田 泰三、寺田 敏紀、寺谷 淳、寺本 健三、内藤 郁子、中井 健一、中川 慶太、仲北 好宏、中島 弘益、中島 吾郎、中司 小百合、中西 努、中村 進一、中村 有希、中村 陽一、中山 雅永、西尾 由輔、西川 武士、西澤 享、西村 健、野原 将嗣、野間 久世、歯黒 健夫、橋本 典幸、橋本 操、畑 正一郎、籏 哲也、早﨑 真魚、林 建志、林 道弘、速水 孝治、樋口 博紀、平井 義也、平竹 洋子、吹上 裕久、福林 文孝、福本 元気、福本 紗和、藤村 知則、藤原 正行、二松 康、冨名腰 隆、船橋 律夫、文山 達昭、平家 直美、別府 正広、堀 有輝子、本間 昌次朗、前岡 照紀、前田 史浩、牧野 忠廣、松井 浩一、水口 義晴、三原 一男、宮川 明子、宮川 邦博、宮脇 和生、森川 敏隆、森 知史、矢田部 衛、柳原 博實、山内 典子、山下 信一、山本 耕治、山本 一博、湯川 健司、横井 雅史、吉田 純、吉田 健、吉田 光一、吉田 就一、善積 強、吉永 順子、その他 氏名非公開11名

【団体会員】（五十音順、敬称略）
大阪ガス株式会社、京ぐらしネットワーク、京都駅ビル開発株式会社、公益社団法人京都市観光協会、京都信用金庫、京都中央信用金庫、一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会、京都ライフラインソリューション株式会社、京町家居住支援者会議、サッポロビール株式会社、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹、住宅金融支援機構、株式会社ステーション、一般社団法人相続相談センター、株式会社地域計画建築研究所、株式会社中藏、株式会社八清、株式会社フラットエージェンシー、平安建材株式会社、株式会社都ハウジング、その他社名非公開1社

京町家まちづくりファンド

京町家を未来へ　あなたの思いをファンドへ

京町家まちづくりファンドでは、京都固有のくらし・空間・まちづくりの文化の継承と発展を目的に平成18年度からこれまでに90件の京町家の保全・再生・活用を支援してきました。継続的な事業実施のため、皆さまのご支援をお願いします。ご寄附は、金融機関へのお振込、クレジットカード決済、当財団窓口での現金受付のいずれかの方法により、一口 1,000円から受付しております。

ご寄附いただいた皆さまには
- 京町家まちづくりファンドによって改修された京町家の見学会や報告会等のご案内を差し上げます。
- お名前を京町家まちづくりファンド専用ホームページ等に掲載いたします。
- 税制上の優遇措置（2,000円を超える額の寄附をした個人の方は、確定申告により所得税の控除が受けられます。）

詳しくは京町家まちづくりファンド専用ホームページをご覧ください。
京町家まちづくりファンド専用ホームページ ▸ http://kyoto-machisen.jp/fund

2020年　京町家まちづくりファンドに御寄附いただいた皆様

皆さまの御支援に深く感謝申し上げます

【個人】（五十音順　敬称略）
井上誠二、上田杉夫、大前温彦、角川裕次、河崎尚志、木股博一、栗山裕子、髙木貴子、西村孝平、望月幸夫　ご芳名の非公開希望を合わせた11名の皆さま

【法人・団体】（五十音順　敬称略）
(株)井筒八ツ橋本舗、FVジャパン(株)、(株)大下工務店、京果 京都青果合同(株)、京都クレジットサービス(株)、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、(株)さんけい、(有)鈴木モータース
(株)辻工務店、Deepest Kyoto Tour、(公財)日新電機グループ社会貢献基金、(一財)長谷川・歴史・文化交流の家、(株)フージャースホールディングス、まいまい京都、(株)都ハウジング